

# 出雲の山城登山 その3

藤井 諭

## 月山富田城

3月19日に有志8名で登った。出雲の山城の中心となった難攻不落の城である。その中心の山中御殿への登城口は菅谷口、塩谷口、御子守口の3つがある。御子守口から登ると広大な平地の山中御殿だ。ここは尼子時代には無かったもので、吉川広家の代に谷を埋めて広げ、本丸に代わる御殿を建てた所だ。周囲は石垣で守られていた。

山中御殿から本丸への道は七曲がりと呼ばれる急坂で、堅牢に守られている。息を切らせて七曲りを登ると三ノ丸がある。ここからの眺望は素晴らしく、飯梨川を挟んで京羅木山とその右に砦の三郡山と勝山城跡が一望だ(右写真)。毛利軍の月山兵糧攻めの時、元就らはここより300m高い京羅木山本陣で月山を見下ろしながら宴会をしていたのでは？と山仲間が話が盛り上がった。今年始めに月山周辺



の模型が史実に基づいて精巧に作られ、道の駅にある歴史資料館で公開されている。本丸、二の丸と三の丸を見ると、それぞれに城郭が築かれ城壁、堀で守られている。

本丸の最奥から菅谷口へ派生する尾根には多くの土塁が築かれていたとあるが、現場から尾根への下りは断崖になっている。別の日に現地を調べたところ、菅谷口の城安寺にある尾根末端から尾根沿いに登るふみ跡があった。冬季に城安寺から尾根沿いに本丸までヤブ漕ぎ、どなたか一緒に登ってみませんか？

## 月山の歴史ポイント

6月9日単独で月山の周辺の名所を巡った。その行程をトレース図に示す。

道の駅→毛利元秋の墓→新宮党館跡→新宮部落→山中鹿之助屋敷跡→城安寺→菅谷口虎口→山中御殿→巖倉寺→堀尾吉晴の墓、山中鹿之助供養塔→歴史資料館→道の駅

新宮橋を東に進むと新宮集落がある。新宮党は尼子最強の軍団だったが、毛利の調略で裏切者と誤った尼子勝久に一族郎党とも惨殺された。軍団の消滅によって尼子軍は弱体となり毛利に滅ぼされた。新宮党館跡に立つと、戦国の世の残酷さを思わずにはいられない。

山中鹿之助屋敷跡では、英雄の





普段の生活が静かで質素であったと感じた。太鼓壇には記念像、巖倉寺には供養塔がある。彼は「我に七難八苦を与えたまえ」の心の忠義心を持つ英雄として、今も多くの人に敬愛されている。

菅谷口は尼子時代のメインルートで、その入口には城安寺がある。山中御殿までは10分の登り、その虎口（城門）は守りが強固だった。東側の御子守口を下ると巖倉寺があり、富田城から出雲を治めた堀尾吉晴の墓がある。

歴史資料館には最近作られた月山富田城の模型があり、史実に基づいて精巧に作られている。この模型を見ると・・・三ノ丸から本丸にかけていくつもの城郭がある（右写真）。飯梨川は現在の流れと異なり、山麓には城下町が広がっていた。中海と繋がって水運が発達し、塩谷の地名から中海の塩水がそこまで入っていたようだ。



このコースは道の駅からスタートして徒歩約3時間、戦国の歴史学習コースです。歴史資料館は道の駅にあり入場無料です。

### 布部城跡

7月21日単独。右図は広瀬町布部にある布部城跡を中心とする地形図である。布部城跡へのトレースを描いている。尼子の再興を計る山中鹿之助は、生き残り新宮党直系の尼子勝久を立てて兵を上げ、この地で毛利との最後の決戦を迎える。尼子軍は城を下りて○マークの興福寺付近で2倍の毛利軍に対して奮戦する。「布部山合戦」と呼ばれた激しい戦いで鹿之助の軍勢は300人が討ち死にし、この地は雪面が真っ赤に染まったと言われる。敗れた鹿之助らは山越えして上山佐の天馬山に逃げる。その後捉えられ備中松山城へ送られる途中、高梁川付近で暗殺されて波乱万丈の生涯を閉じる。



登山口は布部集落にある布辨神社の境内で、「要害山」の案内板から東屋のある山頂まで約10分です。

3回に渡り「出雲の山城登山」について紹介した。出雲の山城は名のあるものだけでも50はあり、まだ訪れていない山城は多い。初回にも述べたように、山城は戦国時代に作られた史跡であり、戦の様子を想像してゆっくり登るのが良い。一般の登山と異なり、山城登山は立ち止まって時代を妄想しながら楽しむ登山である。歴史の関連深い複数の山のハシゴも面白く、希望があれば来年度の定例山行で企画して行きたい。

(おわり)